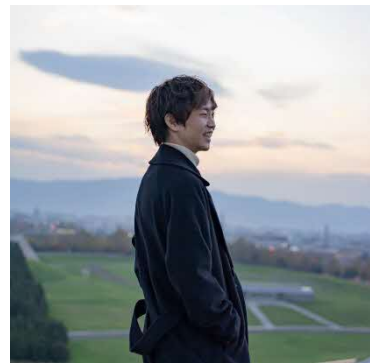


07 農業・林業

基本情報



【年 齢】
29歳
【出身地】
フランス レンヌ
【転出元】
北海道札幌市
【前 職】
リノベ札幌株式会社
【活動時期】
R5.2～R7.1

協力隊に応募したきっかけ

私は前職で札幌にて建築の設計をする傍ら、ShopBotというデジタルデータによる木材加工機の運用管理をしていました。ShopBotは手加工が難しい曲線や3D加工を得意としていて、ものづくりの幅を大きく広げるポテンシャルを秘めていると思っています。木材が豊富なこの場所でShopBotを使って地域の方々がものづくりを自由に行える場所を作りたいと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

滞在型観光に向けたカヌーづくりをはじめとしたものづくりコンテンツや地域おこし協力隊の活動をする中で交流を深めた第一次産業者の方々との連携の元、森町が泊まって楽しい場所となるようにしていきたいと思っています。また、その中で前職の建築の知見を活かして地域の居場所づくりや宿事業を手掛けられたらと考えています。

活動内容

●道南スギカヌーづくり継承

町産材のPR、事業継承として木製カヌーづくりに挑戦。森町でカヌーづくりを趣味でやっておられる方と出会い、その方の最後の弟子として技術を継承し、道南スギでカヌーを制作。カヌーづくりから体験までを観光事業として展開予定。



●にばんきび収穫祭

サイズが小さい、実が詰まっていないため破棄されてしまうにばんきび。味としては全く問題のないともろこしが捨てられてしまう現状を打開するために、道南地域にお住まいの親子向けに収穫体験イベントを開催。



●杉タグによる魚単価向上

漁師さんと協力して出荷する魚につけるタグを道南スギで制作。タグのデザインも漁師さんと何度も打ち合わせを重ねて制作し、出荷した魚は今までもよりも単価が上がり、ブランディングとして成功を収めることができた。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) ruisseau.koki@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-7269-2784

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
https://www.instagram.com/mori_no_francois
<https://www.facebook.com/ruisseau.koki>

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
大阪府寝屋川市
【転出元】
大阪府寝屋川市
【前 職】
和田税理士事務所
【活動時期】
R3.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

3年前、趣味である旅行やアウトドアは、コロナ禍で外出が制限され、ストレス発散が出来ない日々。そんな中「30歳になる前に、体を動かす仕事が見てみたい！」「北海道に住んでみたい！」と、強く思うようになりました。酪農業に従事し、様々な方とも交流のできる「別海町の協力隊」をネットで見つけ、応募。別海町の友好都市である枚方市は、私の出身地に隣接する市で、高校・アルバイト先が枚方市だったこともあり馴染みがありました。その点も、訪れたことのない地に移住する、ひとつのきっかけでした。

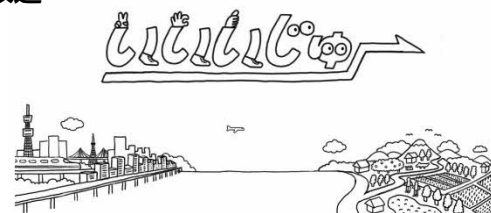
今後の抱負・任期後の目標

別海町では、エゾシカによる牧草の食害に悩む農家さんが多くいます。そこで「自分が役に立てることはないか？」と考え、有害駆除を行うため、狩猟免許を取得しました。まだまだ、ハンターが仕事になるレベルではありませんが、地域に頼られるような活躍をしたいと思っています。また、インバウンド向けの宿泊施設の運営や、牧場の6次化にも興味があるので、酪農業を営む農家さんと一緒に、新しいことにどんどん取り組んで、今後もチャレンジしていきたいと思っています。

活動内容

●NHK移住ドキュメント「いいいじゅー！！」放送

地域おこし協力隊として大阪から移住し、酪農に関する仕事などを追ったNHKの移住番組の密着取材に応じました。放送日以降大変多くの反響が寄せられました。



●「受け継ぎたい北海道の食」動画コンテスト

農林水産省主催の標記動画コンテストで、優秀賞を受賞。動画コンテストの作品はYOUTUBE上でも公開されており、他方面から高い評価を受けています。



●酪農女性の活動を支援するイベントの開催

「べつかい酪農女性プチサミット」等、酪農女性の活動を支援するイベントの中心メンバーになり、多くの参加者を集めるなど、大変活躍しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス：別海町役場農政課) nousei@betsukai.jp
(電話番号：別海町役場農政課) 0153-74-9251

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(研修牧場Instagram) 別海町酪農研修牧場(@betsukai_kenboku写真と動画
(個人SNSまとめ) [MOEKA.lit.link\(リットリンク\)](https://moeka.lit.link/)

基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
神奈川県平塚市
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前 職】
会社員
【活動時期】
R4.4～（現役）

協力隊に応募したきっかけ

両親が秋田県出身、かつ母親が小坂町出身のため、幼少時代は夏休みによく遊びに来ていました。
令和3年10月、初めて妻と子供を連れて小坂町を旅行で訪れた際に宿泊したホテルで「小坂七滝ワイン」に出会ったことから興味を持ち、ワイン用のブドウ栽培やワイナリーでの業務を地域おこし協力隊として募集していることを知りました。
妻から快く背中を押してもらい、自然豊かな小坂町で子育てをしていきたいという想いから応募をしました。

今後の抱負・任期後の目標

ワインコンクールの開催をきっかけに、BBQ検定を受けてワインとのマリアージュを考えたり、美味しい楽しいイベント企画をたくさん生み出していきたいです。
小坂町でのヤマブドウ系のワインの明るい未来のために、私も一粒の実になってワイン事業の発展に関わっていききたいです。
また、協力隊の退任後はブドウ栽培についてさらに学びを深め、自分の土地でブドウを栽培して、そのブドウでワインを醸造したいと思っています。

活動内容

●ブドウ栽培

春先に余分な芽を取り除く「芽かき」、その後新梢を棚に固定し、日当たりにムラが出ないように、病気にならないよう誘引作業をしていきます。
品種にもよりますが、8月下旬からは収穫がはじまります。ひとつひとつ手作業で選別をしながら丁寧に収穫を行います。



●山ぶどう系品種のワイン醸造

日本の滝百選「七滝」のそばにある「小坂七滝ワイナリー」でワイン醸造に携わっています。
8月下旬からはブドウの収穫と並行して醸造作業が始まります。ブドウの房から梗を取り除き、果皮を破って果汁を出す除梗破碎作業から瓶詰、すべて手作業のラベル貼りまで繊細な作業が続きます。



●PRイベント等への運営協力

今年小坂町を会場に「第1回日本山ぶどうワインコンクール」が開催され、集計係として運営に関わり、会場の緊張感を肌で感じました。
また「小坂七滝ワイナリー」のワインが金賞に値する茜賞を受賞したことで多くの反響があり、より多くの方々に小坂のワインをPRしていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】小坂町総務課企画財政班 担当：木村
（メールアドレス（個人or職場））kikaku@town.kosaka.akita.jp
（電話番号（個人or職場））0186-29-3907

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
特になし⇒今後、広報での連載、SNS等での発信を検討中

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
東京都江戸川区
【転出元】
東京都江戸川区
【前 職】
都内区立保育園 栄養士
【活動時期】
R2.6～R7.11

協力隊に応募したきっかけ

福島へ行ったことすらありませんでしたが、郡山出身の友人をきっかけに連休のたびに郡山へ遊びに行くようになりました。行き来を重ねるうちに友人知人が増え、東京での仕事や当時通っていた夜間のスクーリングもひと段落つきそうだというタイミングで郡山の知人から「地域おこし協力隊」をご紹介いただきました。東京へ帰ってくるたびに視覚的情報量の多さにストレスを感じていたこと、新たな土地で自分のスキルが活かせる仕事がしたいと考えるようになり、応募を決めました。

今後の抱負・任期後の目標

今年度取り組んだイベント2本が多くの方からご好評いただき、開催後も次回開催の期待の声が寄せられました。引き続き地域の魅力をPRする取り組みをしながら、今後はさらにターゲットを外へ広がりを持たせられたらとも考えています。

任期後については着任1年目に興した会社の運営と、会社とは別に個人事業主としても開業しキッチンカー事業も並行して進めていきたいと考えています。会社では既に郡山の特産品「鯉」を活用した6次化商品開発やYouTubeを活用した魅力発信事業、移住定住促進事業に取り組んでいます。キッチンカー事業では県内産食材を使用した商品を販売予定です。どちらも地域に根差した取り組みをしたいです。

活動内容

●地元ワイナリーの魅力発信！

地元ワイナリーを会場にイベントやワークショップ、コンサートなどを開催し、まずは知ってもらう・足を運んでもらうきっかけづくりをしています。アルコールを取り扱っているので成人向けコンテンツが多くありますが、イベント等を取り組む際にはお子様にも楽しんでいただけるような内容になるよう心掛けています。

イベントのフライヤーデザインや企業さんの記念ラベルデザインなどにも携わっています。



●地域の「食」をテーマにイベント開催！



R5.7月「こおりやまサマーナイトマルシェ（来場者1,500人）」、R5.9月「こおりやま秋のパンまつり（来場者3,500人）」を開催し、郡山や周辺市町村の飲食店さんにご出店いただき、大勢の方に足を運んでいただけたイベントとなりました。それぞれテーマを設け、色々な角度から「郡山の食」をPRしたイベントとなりました。

その他、新米イベント、米粉料理教室にも携わり、栄養士としての視点も取り入れながら活動しています。

●YouTubeを活用したPRも力を入れています！

郡山市や周辺市町村の情報をYouTubeで発信しています。地元飲食店やローカル商品の紹介、田植え体験、地元バスケットボールチームへの取材などを行っています。「えみたろ」の愛称で地元の方々にも覚えていただき、イベントなどでも視聴者の方からお声がけいただくほどになりました。



動画投稿本数：112本
チャンネル登録者数：1230人

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人））emi.s@fukushima-local.com
（電話番号（個人or））080-9261-9958

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（個人Instagram）
https://www.instagram.com/emi_taro



基本情報



【年 齢】
35歳
【出身地】
福島県 喜多方市
【転出元】
埼玉県 入間市
【前 職】
物流関係
農業
【活動時期】
R3.4～（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

地元、会津に戻り農業がしたいと思い、まずは農業の知識などを学び、環境やその地域に合った農業を知るため協力隊に応募。

今後の抱負・任期後の目標

まずは、現在行っている堆肥製造の結果をもとに来年度の計画を決め実行に移す。また藍を栽培しており今後、染作りから藍染めまで行っていき、任期後の就農において1つの収入源としてやっていけるようにしていく。

活動内容

●堆肥製造

町内の未利用資源を利用した、町独自の高品質で安価な良質堆肥の製造を令和3年度から製造を行っており、試行錯誤を重ね完成を目指している。



●ばんだい薬草の会

ばんだい薬草の会という会があり、おたねにんじんや藍の栽培を行っており、栽培した藍を染作りから藍染めまでを出来るような環境作りをしていく。



●耕作放棄の再生

現代では耕作放棄が増加している中で耕作放棄の再生に取り組むことでなぜ、耕作放棄になってしまったのか、現状の把握や、再生する難しさが実感できると思い取り組みを行った。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

yoshiyuki_oomori@town.bandai.fukushima.jp
(磐梯町役場農林課) 0242-74-1217

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram個人) <https://www.instagram.com/ohmori1988>
(Instagram農園) <https://www.instagram.com/miokasalo>

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
鳥取県鳥取市
【転出元】
鳥取県鳥取市
【前 職】
農業法人
【活動時期】
R5.4～R8.3

協力隊に応募したきっかけ

私は9年間農業に関わってきました。その中で違う焦点から農業を見てみたい、鳥取以外の地域の農業はどのような違いがあるのか。今までの経験を活かせることがあるのではないかと思います地域おこし協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

磐梯町に合った有機、特別栽培の手法を模索して実用化できるようにしたい。

活動内容

●水稲有機、特別栽培 秋耕

私は現在水稲の有機栽培、特別栽培に関わってます。その中で紹介するのは秋耕についてになります。

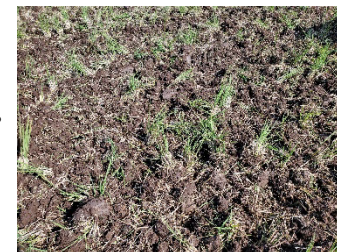
秋耕とは、稲刈り後の藁を苦土石灰、発酵鶏糞と共に鋤き込むことです。

そうすることによって藁が分解されて浮き藁を無くし肥沃な土壌を作ることができます。



●水稲有機、特別栽培

令和6年度の水稲栽培圃場をお借りして実際に有機栽培の手法を使って1年間栽培をさせていただきます。すでに上記の令和5年度秋耕からスタートしており地温等のデータもとっていく予定です。



●イタリア野菜研究会

イタリア野菜は徐々に国内での需要が高まり全国的に生産量を増やそうという動きが出てきてます。

そのため同じ地域おこし協力隊で研究会を立ち上げ磐梯町でも新たな特産品として栽培できるのか少量ではありますが試験栽培に取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(職場)) Masashi_nakamura@town.bandai.fukushima.jp

(電話番号(職場)) 0242-74-1217

基本情報



【年 齢】
22歳
【出身地】
茨城県桜川市
【転出元】
茨城県桜川市
【前 職】
大学生（卒業し大学院へ）
【活動時期】
R3.4～ R5.10 現在
（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

大学で地域づくりやまちづくりについて学ぶ中、地域へのフィールドワークや福島県の奥会津での二拠点生活を半年間するなど地域との関係を深めてきました。そんな中で、中之条町にもフィールドワークに訪れ、半年間月1回で通っている間に中之条町と中之条町の人々にひかれ地域おこし協力隊になりました。

今後の抱負・任期後の目標

今後は、定着するための準備をきちんとしていき、より中之条町に貢献できる活動をしていきたいです。また、現在事務局をしている地域の人たちと立ち上げたNPO法人をきちんと回る形にし、地域の糧としていきたいです。

活動内容

●高校生農業インターンの受け入れコーディネーター

令和4年度から、都内の高校生数名を2週間中之条の農家さんにインターンするプログラムのコーディネーターをしました。毎日の生活はもちろん、日々のインターンシップでの困りごと、各農家での活動の目的設定など高校生が実践的に学びになるプログラム運営をしました。



●地域おこし協力隊関連、その他関係人口の受け入れ

地域おこし協力隊関連として、おためし協力隊や協力隊インターンの受け入れコーディネートを行いました。そのほか、中之条町をより多くの方にいただくため、地域づくりやまちづくり、観光を入り口にした講座の運営や町に興味を持っていた方の受け入れもしています。



●農業振興関係業務

上記の二つは農業をはじめとした町の担い手を確保していくための活動です。その他には、町に新設された第6次産業化、開業支援のための調理施設の運営やオンラインでのお米の販売、役場でのマルシェなど小さいことからコツコツ始めています。昨年から2人体制になりましたので動きを大きく加速させていきます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メール）nakanojotiikiokosi@gmail.com（電話番号）070-4115-8936

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

Facebook（個人）：

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100012878470318>

インスタ（NPO法人中之条コネクト）

<https://www.instagram.com/nakanojoconnect/>

基本情報



【年 齢】
30歳
【出身地】
千葉県市原市
【転出元】
東京都江東区
【前 職】
旅行会社
【活動時期】
R2.10～ R5.09
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

都内で会社員をしていたのですが将来的に地方、田舎暮らし、島暮らしへの憧れがあり、地域での活動がしたいと思っていたところ地域おこし協力隊という制度を知りました。その求人の中で現在の仕事の募集があり即決で応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も伊豆大島への定住を予定しています。個人事業での開業を予定しています。2022年7月に伊豆大島ジオパーク認定ジオガイドとなったのでガイド業と現在の直売所を掛け合わせられるイベントを造成したいと考えております。卒業後はゲストハウスの立ち上げを予定しており任期中に着手して開業を目指しております。

活動内容

●店舗のSNS運用

農産物直売所「ぶらっとハウス」に勤めているので日々の店舗での様子やイベント情報などをSNSを通じて宣伝、発信しています。



●イベントの企画運営

店舗での仕事の他にも定期的にイベントの企画運営をしています。店舗としてのマルシェ開催に加えて少し小規模な収穫体験、野鳥観察会など野菜の販売以外での広がりを目指して日々活動しています。



●特産品を使った商品開発

季節ごとの特産品を使ったジェラートの製造をメインに商品開発をしています。それに加えてドリンクなどの商品も開発しています。商品を充実することにより長い時間滞在できるような店舗の仕組みも考えています。



連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ガイドHP QRコード) (Twitter:@2knd0) (Instagram:@2ryknd0)



基本情報



【年 齢】
44歳
【出身地】
東京都利島村
【転出元】
東京都
【前 職】
飲食業
【活動時期】
R3.4～R6.3

協力隊に応募したきっかけ

元々、利島村出身で中学卒業してからは都心で生活、仕事をしていたが、下の子どもが小学校入学するタイミングで、地元に戻り、家業を継ぎながら椿関係の仕事に関わりたいと考えて応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

退任後も椿の苗木づくりや椿山の管理、野菜づくりに関わり続け、協力隊活動を活かし、島の農業に貢献していきたいと考えています。

活動内容

●椿山の管理

椿油の原料になる椿実を効率よく拾える環境づくりを1年かけて行っています。春から夏にかけての草刈は重労働で、秋から冬の実拾いは根気のいる作業です。段々畑の形状となっているため、より効率的にできないか試行錯誤しながら管理を行いました。



●野菜の生産

ハウスでの野菜づくりは椿山作業と並行できるような野菜を選択し生産し、主に小松菜などの葉物を中心に色々と挑戦しました。収穫できたものを農協の購買店舗で販売しました。



●椿の苗木づくり

椿実の優良木の枝を使用し、挿木による苗木づくりを行いました。育苗ポットの用土も複数使用することで育成状況に違いがないか定点観測を続け、将来的には、年間3,000本程度の苗木をコンスタントに出荷できることを目指しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) oginoryou@toshimamura.org
(電話番号) 04992-9-0046 (利島村役場 産業観光課)

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
なし

基本情報



【年 齢】
27歳
【出身地】
東京都新宿区
【転出元】
千葉縣市大網白里市
【前 職】
会社員（農業従事）
【活動時期】
R4.4～現在

協力隊に応募したきっかけ

甲斐市の地域おこし協力隊募集要項を見て、農業振興を通じた地域の活性化が主な活動内容の協力隊であり、高校や大学で農業について学んできたこと、また、肥料メーカー勤務や農業現場で従事してきた経験を活かした活動ができると思ったことに加え、将来は自身で農業経営を行いたいという希望を持っており、実現に向けた行政の支援も受けられるため。

今後の抱負・任期後の目標

将来は、ふどうと桃を中心とした果樹農家として生活していきたいと考えています。そのため、甲斐市内での就農に向けて、研修先の農家での実習に励みつつ、農地候補地を探していきます。

また、趣味であるアウトドアを組み合わせた「農業×アウトドア」で何かイベントを実現させたい。

活動内容

●甲斐市特産野菜の栽培補助

甲斐市の特産物である「赤坂トマト」や「ぎゅぎゅっとネギ」、また、芋焼酎「大弐」の原料となるさつまいも「黄金千貫」などの栽培補助に従事しています。作物の栽培方法や野菜の流通を学ぶことができ、地元農家さんとの交流も図られています。



●棚田保存会の活動支援

甲斐市には、日本の原風景ともいえる田園風景である「御領棚田」があります。この棚田の景観を保全する活動を棚田保存会と一緒にを行っています。機械に頼らない手作業での水稲耕作は、大変な作業ですが、貴重な経験となっています。



●地域行事やイベントの運営補助

市内で行われる伝統行事である「おみゆきさん」や「水神祭」「学問祭り」等のお祭りや、農業関係のイベント運営に携わり、地域の魅力の再発見と、その情報発信を行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（甲斐市農林振興課））

nourinshinkou@city.kai.yamanashi.jp

（電話番号（甲斐市農林振興課））055-278-1707

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】



（甲斐市HP）

基本情報



【年 齢】
45歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
静岡県浜松市
【前 職】
保育士
【活動時期】
R5.5～R8.4

協力隊に応募したきっかけ

保育士として仕事をする中で、自然の中で遊ぶ子どもたちの姿が輝いていたため、自然の中で保育をしていきたいと考えるようになりました。今までの人脈や経験を活かしながら、自然に対する知識を学び、身に着けるとともに、専門家と繋がりを作り、新たな活動ができたらと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・子ども向けの自然体験活動イベントの実施
- ・農業体験農園の開園

活動内容

●森林に関する知識習得

獅子ヶ鼻トレッキングや静岡県森林環境指導者養成講座への参加、森林インストラクター受験など、今後子どもたちに伝えていけるように森林や自然、環境について学んでいます。



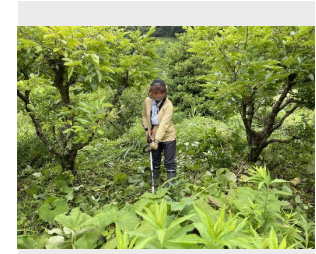
●農業に関する知識習得

JA主催のときめき園芸教室に参加し、実際に一区画を担当しながら、秋冬野菜の栽培や農業に関する知識について学んでいます。



●草刈り・間伐作業

地域の草刈りや、財産区の下草刈り・間伐作業に参加しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) yamamiwata@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-9907-6687
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(X) @iwata_kyoryoku
(Instagram) @yamam.iwata

基本情報



【年 齢】
52歳
【出身地】
大阪府堺市
【転出元】
大阪府堺市
【前 職】
ペット用品製造販売メーカー/商品開発
【活動時期】
R3.1～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

50才までには自然豊かな場所に家族で移住し、自然の中でできる仕事をずっと探していました。甘夏栽培などの知識は皆無でしたが、尾鷲を視察させて頂き、風光明媚な場所にある甘夏畑に魅了されました。また、歴史はあるが、栽培量が少なく市場に出回らない希少価値の高さに魅力ある商品であると感じ尾鷲の甘夏文化を守りたいと思いました。新しい農法、6次化などで尾鷲の甘夏を活性化していくことに魅力を感じました。

今後の抱負・任期後の目標

耕作放棄地になっていた甘夏畑を再生させ、就農人口の減少、高齢化問題を解決すべく、約60年続く甘夏栽培の歴史を繋いでいく為に、甘夏栽培の新しいアプローチや尾鷲の農業を盛り上げていける中心的な役割ができる人材になりたいと考えています。任期後は、継続して甘夏栽培を軸に、収益をUPさせる為に、甘夏を使って新しい商品開発を行い、小規模メーカーを目指します。また、天満地区の活性化を考え、耕作放棄地を活用した、人が集えるような観光農園的な事業をすることが目標です。

活動内容

●耕作放棄地の再生

耕作放棄地になってしまい元気を失った畑の再生に取り組んでいます。
新しい栽培方法にもチャレンジして、今後新規就農者が就農しやすいような魅力ある栽培方法を模索していきます。



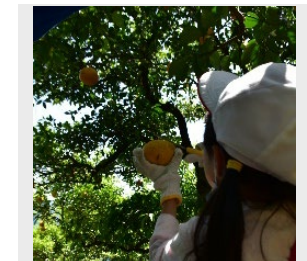
●6次産業化に向けて新商品開発

尾鷲の甘夏を使った加工品を開発することで、歴史ある尾鷲の甘夏の認知向上を目指します。
認知度が高い、お魚の町尾鷲をイメージしやすいように、お魚と相性の良い甘夏ドレッシングを23年6月10日に新発売しました。引き続き甘夏の魅力を伝えることができる新商品開発を検討していきます。



●尾鷲特産品としての甘夏の認知向上

尾鷲の甘夏は、就農者数の減少、高齢化問題などで、生産量が激減し、若年層にも特産品として認識してもらえておらず、食文化も消滅しかかっています。
まずは、尾鷲の子供達に、ソウルフрутである甘夏を再認識してもらう活動として、地元の小学校にて、収穫体験を通しての食育をスタートしました。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) nougyou@city.owase.lg.jp
(電話番号) 0597-23-8224

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
・Instagram (https://www.instagram.com/amanatsu_tenma/)

基本情報



【出身地】
奈良県 奈良市
【転出元】
奈良県 奈良市
【前 職】
エステティシャン
【活動時期】
R4.5～

協力隊に応募したきっかけ

鳥取に母方の実家があり小さい頃から毎年遊びに来ていました。

自然豊かで農業に触れ合える環境があり
将来農業に関われる仕事がしたいと子供の頃から
考えていました。

鳥取といえば梨、梨といえば東郷と思い
湯梨浜町でまずは梨の知識を得て沢山の人と繋がりたいと
地域おこし協力隊に応募しようと思いました。

今後の抱負・任期後の目標

梨のPR、農家さん向けのイベント開催
梨に関するイベントやSNSでの情報発信

イベントで体の使い方を
農家の方に知っていただくきっかけ作り
長く農業を続けていける体との関係性を知ってほしい
と思っています。
任期後も地域との関わりを継続していきたいです。

活動内容

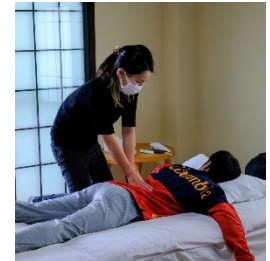
●梨づくり

年間通して梨が出来るまでの作業を
町内の梨農家のもとで勉強させて頂きながら
手伝っています。



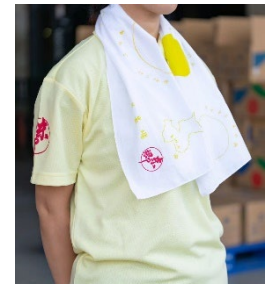
●農家さん向けのイベント

農家さん向けのイベントを開催しています。
作業で体にどれだけの負担がかかっている
のかを知ってもらい
今後どういう体の使い方をしたらいいのか
理解してもらう機会を作っています。



●梨のPR活動

新規就農イベント、農業体験、東郷梨選果場ツアー
SNSでの日々の作業や交流の発信
東郷梨選果場ポロシャツ、手ぬぐいプロデュース
東郷梨選果場の作業をSNS発信、PR、梨祭開催
東郷梨選果場で働いている方に向けてのイベント



連絡先

【メディア等の取材連絡先】湯梨浜町役場 産業振興課
(電話番号) 0858-35-5384

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram



基本情報



【年 齢】
50歳
【出身地】
静岡県浜松市
【転出元】
東京都江戸川区
【前 職】
パン屋さん
【活動時期】
R3年4月～R6年3月
(3年目)

協力隊に応募したきっかけ

地域おこし×島根県オリジナルぶどう“神紅”（しんく）の新規産地化を目指して動き出した邑南町のヴィジョンと、前職のパン屋さんの地方移転計画と同時に、農業（特にぶどう栽培）への関心が高まっていた私のヴィジョンが近いと思い応募させて頂きました。

今後の抱負・任期後の目標

任期終了後すぐに就農しますので大変な事もあるかと思いますが、就農に対する準備は3年間もさせて頂いてきております。この間に培った農業に関する事、地域に関する事、生活に関する事などを活かして、人生最後の挑戦を着実に、そして邑南町の皆様と楽しみながら進んでいく覚悟です。

活動内容

●1年目の活動

初めての農業、初めての共同作業。主に地元JAさんと連携を取りながら邑南町に集まった同期の仲間と様々な野菜や花を育てて出荷致します。草刈りひとつ取っても周辺農家さん達とのコミュニケーションの大切さを学びました。



●2年目の活動

県の農林大学校で1年間の短期養成コース（果樹専攻）に通わせて頂きました。今後、島根県でぶどうを栽培していくのに必ず役立つ内容の課業にどっぷりと浸かることが出来ました。あまりにも積極的に質問し過ぎて、先生方を困らせてしまった事も度々ありました。



●3年目の活動

邑南町での就農に向けて最終準備の年です。自分がリースをする予定のハウスでぶどうの樹の育成をしながら、作成した就農計画を元に就農初年度で必要な経費の準備を行います。まだ就農前なので幻に終わりましたが、お試して着果させてみた初なり神紅の…それはそれは美味しかったこと。



連絡先

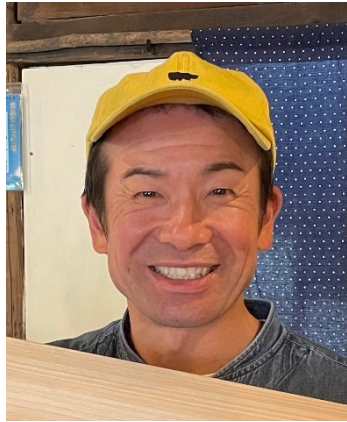
【メディア等の取材連絡先】

(電話番号) 090-9144-4061 (岡村健太)
就農後の屋号は、紅ぶどう園（くれないぶどうえん）です。

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

岡村健太 (@posge) さん / X (旧Twitter)

基本情報



【年 齢】
46歳
【出身地】
福岡県久留米市
【転出元】
岡山県岡山市
【前 職】
農業機械メーカー
設計開発、営業
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

前職の関係で農機具の紹介に、英田上山棚田団を訪問した時、稲刈りを一緒にやったことが始まりでした。この時に、お米づくりを続けることで里山も整備され、人の暮らしも続けていくことができると教えてもらいました。昔ながらの大変な作業も、仲間が集まることで楽しくできるし、おいしいお米も食べられる。最高だと思いました。また、これまでの仕事柄、使用されている農機具や草刈機のメンテナンスや修理ができるので、自分の経験を活かすことができる環境だなと感じたこともきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

任期後も、上山で棚田に関わりながら暮らし続けていくことです。生活のための稼ぎを考え出していくことが協力隊期間の課題と考えています。

楽しくなければ続けられないので、関係人口を増やし、笑顔の絶えない棚田の作業を続けていきたいです。

活動内容

●棚田の再生・維持活動

地域住民や稲株主など、棚田に関わる人と共に
お米づくりを続けていくことで棚田のある景観を
守っていく。

稲株主制度：稲株のオーナーとなり、農作業体験や
収穫祭に参加し、配当米を受け取れる制度。

また、お米以外の棚田活用方法を試行錯誤する。



●農業機械のメンテナンス・修理

農作業に必要な機械を少しでも長く使い続けられる
ように、メンテナンスや修理をする。

棚田団所有の機械をはじめ、地域住民のものまで。
農機具屋から集落まで遠いので、機械の調子が悪い
時に来てもらうのは時間がかかる。

機械のかかりつけ診療所的な役割を担っていく。



●いちよう庵、上山逸品

・上山でできた製品たちを「上山逸品」として紹介、
販売していく。地元のマルシェから都会のデパート
など幅広く。合わせて稲株主の募集もしていく。

・上山にある棚田団の拠点「いちよう庵」の活用と
して、カフェやイベントスペース、ワークショップ
など、人が集まって得意を披露する場所にする。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人or職場)) kumap.kumap83@gmail.com
(電話番号(個人)) 090-1018-2782

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(Instagram) https://www.instagram.com/ueyama_tanadadan
(Face book) <https://www.facebook.com/tanadadan>



基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
東京都八王子市
【転出元】
東京都八王子市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R4.4～R.7.3（予定）

協力隊に応募したきっかけ

大学4年生の時、インターンをきっかけに鬼北町の道の駅を訪れ、鬼北町を知りました。以前から農業に興味があり、特に養鶏等の生き物に関わる仕事をしたいと考えていました。鬼北町は全国でも珍しい「きじ」の特産地です。鬼北町を訪れるまで、きじの養殖が盛んであることを知りませんでした。「きじ」という、珍しい品目を育てること、きじという食材を全国に広めることにやりがいを感じ、きじ生産に関わってみたいと思い、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

きじの養殖で独立する事を考えています。現在は一人暮らしですが、いずれは東京の家族を鬼北町に呼び、家族の面倒を見ながら働ける方法を確認したいと考えています。私の家庭は4人家族で、父親と、私を含める三つ子の兄弟がいます。私以外の兄弟は重度の知的障害を抱えており、誰かが面倒を見る必要があります。そこで、生活介護事業者のような形で起業し、主な事業をきじの養殖や農業とし、日本の未来と自分の幸せを両立させるような仕組みづくりをしたいと考えています。

活動内容

●きじの飼育

きじの飼育の主な内容は、きじの孵卵、育雛、餌やり、きじ舎内の清掃、消毒、出荷などです。きじはニワトリ等と異なり、春にしか産卵しない生き物です。4～6月は孵卵、育雛。7～10月は成鳥の飼育。11～1月は出荷。1月からは親鳥の育成と、季節によって様々な業務があります。



●野菜の栽培、県内農家の視察

近所の畑をお借りして、様々な野菜の栽培を行っています。畑にはきじ舎で取れる糞を主に利用し、それ以外の肥料や農薬をなるべく使わない、循環型農業を目指しています。また、採れた野菜は公民館行事などに活用し、地域行事のサポートも担っています。



●町内農家のサポート

町内農家の業務、きじ生産者の出荷作業等、米農家の柵張りや、くり農家の栗収穫の作業等を行っています。ただ作業を行うだけでなく、栽培技術を学ぶ機会にも繋がっています。地域行事にも積極的に参加し、地域の活性化にも意欲的に取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（個人or職場））omura_satoshi_1012@icloud.com（個人）
（電話番号（個人or職場））090-6307-6278（個人）

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（facebook）<https://www.facebook.com/profile.php?id=100080260146088>
（instagram）https://www.instagram.com/omura_satoshi/